野々池貯水池の跡地利用
さまざまな課題
市として総合的に検討

問　明石川河川水の水源転換で令和10年度末までに貯水施設としての機能が廃止となる野々池貯水池の跡地利用について市の見解を問う。

答　野々池貯水池は、上下水道局が資産として保有し続ける限り、構造物の維持管理などに年間約１５００万円以上の費用がかかるため、今後の取り扱いは大きな課題である。民間事業者が跡地を開発するためには、市街化調整区域から市街化区域への編入や用途地域の指定が必要になること、埋設している水道の重要管路の移設費用が膨大になること、大きな幅員のある道路に接続していないため土地利用に一定の制限があることなど、さまざまな課題がある。

10年度に貯水池機能廃止予定の野々池

７年度は上下水道局で跡地の利活用の調査研究を行い、売却や貸し付けの方法等を検討するが、まちづくりに与える影響が大きく市全体で総合的に取り組む必要があると考える。

水道事業
赤字幅は増加
今後の取り組みは

問　水道事業の安定的・効率的な事業運営の進め方について聞く。

答　令和７年度水道事業予算は、約８億５千万円の赤字予算で５年度以降、赤字幅は増加している。赤字の要因は、水道料金収入が横ばいか減少する一方で、動力費等の高騰や水源転換事業に伴う受水費の増加、水道施設の老朽化に伴う更新費用の増加などである。収入が減少し、費用が増大する中、水道料金の適正化は喫緊の課題であり、市は持続可能な水道事業の健全運営のため、６年度に明石市上下水道事業経営審議会を設置し、水道料金や今後の経営基盤の在り方、運営の諸課題等を審議している。７年度中に経営基盤強化等の答申を受け、市の方針を速やかに示す予定だ。なお、今後の審議内容や検討状況は広く公開し、丁寧に議論していく。

医療志す人材育成へ
県・大学等と連携し
安定した医療提供体制を

問　持続的かつ安定した医療提供のために、地域医療を担う人材を増やす取り組みは。

答　少子高齢化社会の進展に伴い、不足が見込まれる医療人材の確保として、県は、大学や医療機関と連携しながら不足している診療科の医師の養成等、地域医療を担う医療人材の育成や定着を目指す取り組みを進めている。

明石市立市民病院では、医師を目指す学生に修学資金の貸与や臨床実習の実施など将来的な医師確保につなげる取り組みを行っている。また、県立大学看護学部の学生に、実習やボランティアの受け入れを通して子どもたちと触れ合う機会を提供し、トライやるウィークでは、市民病院をはじめ市内の保健福祉医療機関が中学生を受け入れている。

今後も県や医育機関である大学と連携を強化しながら安定した医療提供体制に取り組む。ちづくりにつなげていきたい。

電話で救急相談
#7119
導入を目指す

問　救急安心センター事業（#7119）について聞く。

答　本事業は、病気やけがの対応に迷った際の電話相談窓口である。医師や看護師等、専門知識を持つスタッフが24時間365日対応し、緊急性の有無や応急手当ての方法、受診可能な医療機関の案内等を行い、市民の不安を軽減している。また、搬送者の半数以上が軽症患者である救急車の適正利用を促進する効果も期待できる。

県内では神戸市、姫路市、芦屋市が実施しており、県も令和７年度中に市町と共同で協議会を設置し、人員や設備を１カ所に集約するセンター方式での実施を目指している。

現在、開始時期は未定だが、いざというときに多くの市民に利用してもらえるよう、関係機関とも連携し、積極的、継続的な周知に取り組んでいく。

大蔵海岸で実証実験
移動式バスケットゴール設置
騒音問題や運営課題を検証

問　大蔵海岸の芝生広場にバスケットボールコートを設置することについて、本市の考えは。

答　バスケットコート設置の調査、検討をする中、令和６年10月に大蔵海岸西駐車場で３×３のバスケットボールイベントを実施した。参加者へのアンケートでは、バスケットゴール設置の要望が多く、改めてニーズの高さを認識した。一方、バスケットコートの常設は、地域の合意形成が重要であり、まずは実証実験として７年４月から移動式のバスケットゴールを大蔵海岸多目的広場に設置し、騒音等の問題や運営の課題を検証する予定だ。同広場は、人工芝でドリブル音が軽減されるほか、指定管理者による有人管理のため利用状況が把握しやすい環境であり、実証実験でしっかりと検証していく。

今後は先進事例も参考にしながら、にぎわいのあるまちづくりにつなげていきたい。

昨年10月実施のバスケットボールイベント

幼保小の架け橋期
モデル校を指定し
取り組みを推進

問　文部科学省が推進する幼保小架け橋プログラムを導入して、子どもの就学前後のしんどさを楽にできないか。市の見解を聞く。

答　本市は、就学前施設を対象にアプローチカリキュラムおよび小学校でのスタートカリキュラムを通して、５歳児から小学校１年生の２年間にわたる架け橋期教育の充実を図っているが、各学校園で、別々にカリキュラムを作成しているため、十分に機能しない課題がある。同プログラムの趣旨を踏まえ双方のカリキュラムを機能させるためには、就学前施設と小学校が連携して作成する必要があり、令和７年度からモデル校を指定し取り組む。

今後は、モデル校の成果を共有する仕組みづくりや、小学校２年生以降にも効果的につながる一貫性のあるカリキュラム編成について調査研究を進める。

監査委員
選任に同意

識見を有する者から選ばれる２人の監査委員のうち、藤本一彦（ふじもとかずひこ）氏の任期満了に伴い、菜虫忠司（なむしただし）氏を新たに選任することに同意しました。

同氏は、昭和62年から明石市に奉職され、明石市立市民病院経営管理本部法人管理室長、会計管理者、議会局長などを歴任されています。

監査委員の任期は４年です。

令和６年　明石市議会の会期および議決事項件数

区分	開会日	閉会日	会期日数	市長提出議案								議員・委員会提出議案	
				条例	予算	決算	契約	人事	その他	計	可決数	提出数	可決数
第１回定例会 ３月議会	2/20	3/22	130	22	22	－	1	2	2	49	49	3	3
第１回定例会 ５月議会	5/14	5/15		1	1	－	－	2	－	4	4	－	－
第１回定例会 ６月議会	6/7	6/28		6	2	－	1	1	4	14	14	－	－
第２回定例会 ９月議会	9/9	10/16	101	2	3	14	2	2	－	23	23	2	2
第２回定例会 12月議会	11/27	12/18		7	4	－	－	1	6	18	18	1	1
計			231	38	32	14	4	8	12	108	108	6	6

議員よもやま話

高校時代、器械体操部に所属していました。本当は中学からやりたかったのですが、校区の中学校には体操部がなく、「体操部がある高校」を選びました。

「トラッキー（阪神タイガースの公式マスコット）の中の人になる」という夢を掲げ、必死にバック転を練習。練習しすぎて水泳の授業で前方宙返りで飛び込んでしまったことも。合宿に持ち込んだマンガは、今も顧問に没収されたままです。思い出すのは、ばかなことばかりですが、夢中になれるものがあり、仲間と過ごせた時間はかけがえのないものでした。

今、中学校の部活動の在り方が変わりつつあります。環境は変わっても、子どもたちが「夢中になれる時間」を持てるよう、地域全体で支えていきたいですね。